

2020年の東京／Beyond 2020特集 によせて

パナソニック（株） ソリューション営業担当参与
 （兼）東京オリンピック・パラリンピック推進本部長
 ビジネスソリューション本部長
 統合型リゾート（IR）事業推進本部長

井戸 正弘



＜オリンピック・パラリンピックへの取り組み＞

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年がいよいよ目前に迫ってきました。

当社はカルガリー1988冬季大会から30年以上、17大会にわたりオリンピックにワールドワイドパートナーとして貢献してきました。また、2014年には国際パラリンピック委員会とも日本企業としては初めてとなるワールドワイドパートナー契約を締結しています。

東京2020大会は、「スポーツには世界と未来を変える力がある」というビジョンのもと、史上最もイノベティブな大会を目指す東京2020組織委員会が発表しています。当社にとってもオリンピック・パラリンピックはイノベーション創出の機会であると言えます。例えば、スポンサーカテゴリーであるAV機器では、北京2008大会でフルHD、ロンドン2012大会で3D、ソチ2014冬季大会で4Kなど、新たな商品・技術を導入してきました。

リオ2016大会、平昌2018冬季大会の開閉会式では、最新の映像機器や音響機器、プロジェクトマッピング技術を核としたソリューションを提供し、演出の企画から運営までサポートしました。東京2020大会でも、これらのノウハウと最新の技術を掛け合わせて、世界中の人たちが「さすが日本」というような最新技術で大会の成功に貢献してまいります。

さらに、私たちがお役立ちをしていかなければならないのは、大会に対してだけではないと考えています。オリンピック・パラリンピックは都市力を大きく向上させる可能性をもっています。前回（1964年）の東京大会はハード重視の発展途上国型のオリンピック・パラリンピックでしたが、2020年は、ソフト・サービス面での課題解決も期待されている「成熟国家型」の大会と言えます。

＜2020年とその先に向けたレガシー形成の取り組み＞

私たちは、2020年だけでなく、その先のレガシー形成も視野に入れて社会課題を明確化し、将来からの逆算で新たなソリューション「5スマート+ネクスト3」を提案し、他社と協業することにより事業化してきました。



(注1) 無電柱化に伴い設置される地上機器を活用したサイネージなどの新事業創出
 (注2) LED光源の高速点滅によるID番号でさまざまな情報をスマホなどへ送信する技術

第1図 5スマート+ネクスト3 主な具体例

2020年を目前に控え世の中は盛り上がり、インフラ・施設もリニューアルが進みましたが、2020年以降も、空港・商業施設・スタジアム／アリーナなどの施設整備や、スマートタウンなどの新たなまちづくり、統合型リゾート（IR）、大阪万博などの大規模プロジェクトは続きます。私たちは、ハード・ソフトの両面で「施設空間の価値向上」への貢献を目指していきますが、そのためには、2020年を契機として生み出したソリューションをさらに進化させていかなければなりません。

本号では、「5スマート+ネクスト3」を支える当社の最先端技術に関する論文・解説を掲載していますが、2030年、2040年といった中長期を見据えて、これらの技術を社会課題解決型の商材・ソリューションに発展させていくには、当社以外の技術・知見も生かす「オープンイノベーション」の考え方が重要です。これまで多くのパートナー企業様だけでなく、寄稿を頂いている東京大学の隈研吾先生をはじめとした専門家の方々、自治体とも、2020年に向けた取り組みにおいて連携させて頂いております。

本号をご高覧頂き、忌憚（きたん）のないご意見や協業に向けたお声がけを頂きますと幸いです。